1　気持ちや考えの伝え方など社会的なスキルを教える

「こんなときは、友達とどんなふうにかかわればいいの？」
友達との関係づくりの方法がわからない児童が増えています。
「友達の誘いを断るには？」
「すごく怒りがこみ上げたら？」
日常の対人場面で必要な自己表現や、自分の中に生じた怒りへの対処の方法に悩む児童もいます。
こうした現状を受けて、社会的なスキルを身に付けさせるための活動の必要性が高まっています。
生徒指導提要では、ロールプレイングを通じて、自分の意志を状況や雰囲気に合わせて相手に伝える社会的技能を身に付ける「ソーシャルスキルトレーニング」や、対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるための「アサーショントレーニング」、自分の中に生じた怒りの対処法を段階的に学ぶ「アンガーマネジメント」等が紹介されています。
各学校の実態や、各教育活動の特質に留意して実施計画を立てることが大切です。

（２）日常の生活や学習への適応及び健康安全
ウ　望ましい人間関係の形成

今日の子どもに見られる問題行動として，いじめ，不登校，暴力行為などが指摘されている。これらの問題行動の遠因として，家庭や地域社会などにおける子どもの人間関係の希薄化に伴う対人関係の在り方の未熟さが考えられる。このような問題行動を解消するとともに，一人一人の児童の健全育成を図るためには，様々な人間関係を経験させることが必要である。（中略）
具体的な指導内容としては，友達と仲よく，仲直り，男女の協力，互いのよさの発見，違いを認め合う，よい言葉や悪い言葉，親友をつくる，などが考えられる。（中略）
なお，望ましい人間関係の形成の指導として，社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることも考えられる。その際，学級活動の指導の特質を踏まえた指導の展開となるようにするとともに，時間の配分に留意して適切な授業時数を充てるようにし，児童が現実の生活の中で自主的，実践的に望ましい人間関係を築こうとすることができるように配慮する必要がある。
（小学校学習指導要領解説　特別活動編より）

【具体的な実践事例】

○学校行事や全校集会の機会に、人間関係を形成するための方法を練習する場を位置付ける
○朝の時間に、計画的にソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターを実施する
○学級活動、道徳の時間、各教科の授業の指導過程の中に、社会的スキルを身に付けるための活動や指導場面を組み込む

実践事例①：朝の時間を活用して

ある学校では、児童に自分の言葉で伝える力をはぐくむため、朝の時間を活用して、次のような活動に取り組んでいます。

◆アートカードを使い、見たものを言葉で表現する活動（１回）

◆場面に合わせた行動を考えるソーシャルスキル（２回）
・うれしいとき、おもしろいときのリアクションの仕方
・友達のよいところをほめるスキル　など

◆居場所づくりや友達とのかかわりを考えるグループエンカウンター（３回）

（　　）内の数は２学期の実施回数

実践事例②：特別活動の年間計画に位置付けて

ある学校では、児童に社会的なスキルを身に付けさせるため、グループエンカウンターやソーシャルスキル学習を全校活動や学級活動の年間計画に位置付けて実践しています。

◆グループエンカウンターの全校活動

・講師を迎えて年７回、毎月最終木曜日の朝の活動で実施
・活動例　じゃんけん列車（負けるが勝ちよ）、友達つくろうよ　など

◆グループエンカウンターの学級活動

・講師を迎えて、１学年１回実施
・活動例　わたしはだれでしょう、みんなで力を合わせて　など

◆ソーシャルスキルに関する校内環境整備

保健室前に「ソーシャルスキルコーナー」を設け、実生活を想定した場面を提示し、どのように会話をしたり、どのような行動をとったりすればよいかを、具体的に資料を置いて児童が自由に使えるようにしています。

自分の気持ちを素直に伝える方法や人とのかかわり方を学んだ児童は、それを少しずつ日常生活にも生かしています。

実践事例③：ソーシャルスキルの育成を授業の中で

◆学習スキル構成表の活用

ある学校では、ソーシャルスキルトレーニングとして特別な授業を設定するのではなく、普段の授業の中で育てたいソーシャルスキルを学習スキル構成表としてまとめ、意図的に授業の中に取り入れています。次の項目は、学習スキル構成表の一部です。

○　自分づくりのスキル・・・・学習課題がわかる　自分の意見や考えを持つ
○　なかまづくりのスキル・・・相手を意識して発表できる　相手の話を最後まで聞く
○　集団づくりのスキル・・・・グループ間の折り合いをつけられる　解決策を実行する

効果を上げるためのチェックポイント

○　特別活動（学級活動）の指導の特質を踏まえて取り入れる

社会的なスキルの学習を、学級活動や、学校行事、全校集会等の児童会活動に組み入れることが考えられます。その際には、その時間の指導の特質を踏まえる必要があります。例えば、学級活動の「（２）日常の生活や学習への適応及び健康安全」の共通事項「ウ　望ましい人間関係の形成」で取り入れる場合には、学級の問題に気付かせる導入、自分なりの手だてを自己決定する終末を位置付けた指導過程を組む必要があります。

○　生活との関連を図る

人間関係づくりに向けた社会的なスキルの学習は、児童の生活場面と密接に結び付いていることが大切です。児童の日常生活との関連が低いと、長期的に見たときに効果が期待できないことが指摘されています。

２　集団の一員としての在り方、折り合うことの大切さを教える

「みんなで決めたのに、自分はしたくないと言って協力してくれない。」
「試合中、ルールでもめて、自分の言い分が通らないと、みんなを傷つけるようなことを言う。」
　児童から、こんな嘆きがよく聞かれます。
　学校生活をしていると、集団や相手の意向が自分の願いや考えと一致しないこともあります。そんなときに集団の意向を尊重し協力したり、双方の願いを理解した上で折り合いをつけたりすることの大切さを学びとらさなければなりません。

特別活動の目標と生徒指導
(2)　集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ
　現実の集団生活の場においては、個々の人格が軽視されたり、無視されたりすることがあり、誤解や対立が生じるものです。しかし、本来、どのような集団であってもそのようなことがあってはなりません。
　特別活動では、多様な集団が編成され各種の集団活動が行われます。それらの集団活動では、学級・ホームルームにおいて日々生活や学習を共にする同年齢の児童生徒の人間関係、学級・ホームルームを離れた同年齢の人間関係、異年齢の集団活動を行う際の人間関係など、実に様々な人間関係の中で、児童生徒どうしが協力し合って生活づくりや生活問題の解決に取り組んだり、生活や学習への適応などに関する学習に取り組んだりします。
　そうした集団活動における協力し合う過程で互いの理解が深まり人間関係が結ばれ豊かに広がっていくものです。
　児童生徒は望ましい集団活動の場においてこそ、それぞれが個性を生かし、持てる能力を発揮して協働できるのであり、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学びながら社会的に自立し人間的成長を図っていくものです。　（生徒指導提要より）

【具体的な実践事例】

○学級活動「(1)学級や学校の生活づくり」での、集団討議における折り合いによる集団決定や、集団決定したことを基に全員で協力して目標の実現を目指す活動の充実を図る
○代表委員会で学校生活に関する諸問題について話し合い、決定事項について全校児童が集団の一員として取り組むような活動を活性化する

実践事例①：学級活動の話合い活動を充実させる

　この学校では、全学級が月１回は必ず学級会（話合い活動）を行っており、みんなで決めることの大切さを学ばせるために次のような工夫をしています。

◆低学年
交代で司会を経験。提案者がみんなに提案を投げかけ、みんながたずねる場面を重視。

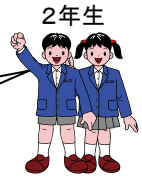
◆中学年
計画委員会の活動を充実。多数決による決定事項を試行し再度話し合う過程を重視。

◆高学年
学校生活の課題を設定。自分の考えカードの交流や少数意見を全員で検討する過程を重視。

実践事例②：学校生活の課題を代表委員会で話し合う

ある学校では、異学年活動の充実を図ることにより、人間関係を築く力や集団の一員としての自覚をもって行動する力などをはぐくんでいます。低学年から提案された学校生活の課題についても、代表委員会での話合い活動を通して、異学年の児童で構成している「ふれあい班」の活動によって解決しています。

（実践例）



僕たちが掃除している階段は、給食の運搬の後の汚れがついてとても大変です。

⇩

運営委員会

「ふれあい班で掃除してみたらいいのでは？」

（良い点）
- ふれあい班がもっと仲良くなれそうだ
- 一緒にすると、楽しめそうだ
- 掃除を上級生に教えてもらえそうだ

（問題点）
- もともと掃除場所や分担は決まっているのだから、２年生ががんばるべきでは？
- ふれあい活動として成り立つの？

⇩

学級・代表委員会

（問題点）を話し合った結果、ふれあい班で掃除することに決定

⇩

学級・ふれあい班

掃除の仕方や道具の工夫について話し合う

⇩

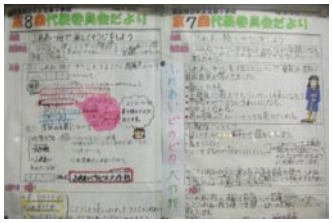
代表委員会

みんなが楽しくがんばれる掃除の仕方や、道具の工夫について話し合う

⇩

ふれあい班での掃除

ふれあい班での話合い


代表委員会からのたより

代表委員会での話合い

各学級やふれあい班の話合いでは、多様な意見が出ます。

代表委員会では、それらを代表者が主張するので、運営委員もまとめるのが大変でしたが、最終的には全員が納得して決定できました。掃除当日は、どの班も全校の目標や約束に向けてがんばり、各班、ひいては全校児童の連帯感が高まりました。

効果を上げるためのチェックポイント

○　集団決定の重さを理解させる

「みんなで決めたこと」は全員がやりたいことではありません。やりたくない友達もいること、それでも決めたことだからとみんながんばっていることを、集団の一人一人が理解しておく必要があります。

「今回は、自分の意見は取り入れてもらえなかった。でも、みんなが言っていることに納得できたから、みんなで決めたことには気持ちよく従わなければいけない。私も協力して、目標を達成するぞ。」児童一人一人がそう思えるように指導・支援することが大切です。